

# 第51回小櫃地区文化祭を開催しました!

11月1日・2日、秋晴れの空のもと、第51回小櫃地区文化祭が開催されました。公民館にはたくさん的人が訪れ、展示やステージ発表、模擬店での買い物を楽しんでいました。にぎわった2日間の様子をご紹介します！



みんなの声が響いたステージ【小櫃小学校合唱部】



迫力の書道パフォーマンス【こども昂書道塾と昂組】



わたあめ作りに夢中！【ちょボラの会】



## 第238号

編集・発行  
〒292-0451 235-2488  
君津市末吉128  
小櫃公民館

## 小櫃の人口

男	2,210人(-5)
女	2,169人(-16)
計	4,031人(-21)
世帯数	2,031戸(+3)

(令和7年10月末(7月末比較))



1945年の終戦から80年目となる本年の文化祭では、「戦後80年のいま、平和を考える」をテーマに特別企画を開催しました。期間中は、君津市域の戦跡や戦時体験の証言をもとに、当時を追体験する資料紹介を行いました。展示資料は、君津市内の公民館が共同で制作し、これまでに集積してきた証言や記録を整理したもので、君津市域の全体像が見える内容となりました。特に戦時中の君津市（八重原工場や小山野地下工場）には、市街地を中心とした「軍需工場としての君津」

（八重原工場や小山野地下工場）と、山間部を中心とする「疎開先としての君津」（小櫃では萬福寺と薬王院）といふ二つの役割があつたことを紹介しました。また、小櫃公民館独自の展示として「日本軍重爆撃機「呑龍」の墜落事故と慰靈碑」「米軍爆撃機B29の墜落と搭乗員埋葬」「萬福寺に残る艦載機「グラマン」の機銃掃射痕」を紹介しました。

「寺の梵鐘供出と農耕馬の動員」「世界平和を祈念した東京湾観音」「宇佐美政衛氏」などほか、地域住民の皆様からご提供いただいた貴重な資料を紹介しました。

11月1日の午後には、ロビートークのよう



トーキングを考えて実施。18名が参加し、小櫃まるごと博物館

「平和を考える」を実施。18名が参加し、小櫃まるごと博物館

戦後がいつか戦前とならないよう、「戦争はやつてはならない」とみんなが思うこと、「物事を正しく判断するためには正しい情報を持ち、学ぶこと」これらを共有できた貴重な2時間となりました。



小学生企画「レジンキーホルダーブル」

地域の小学生・中学生たちが店主となり、手作りキーホルダーや小物づくりの体験コーナーを運営しました。準備から販売まで、力を合備したり、接客の練習をしたり楽しく準備できました。レジンのことを知つてもらえてうれしかったです。



中学生企画「ゆめのほしづくり屋」

だつたけれど、全て売れてうれしかったです。みんな楽し見てもらえてうれしかつたです。最初は、あまり人が来なくて心配だつたけれど、とうに作つてくれてよかつたです。



中学生ボランティアの活躍

地域の皆さんに買ってもらえたのです。みんな楽し見てもらえてうれしかつたです。最初は、あまり人が来なくて心配だつたけれど、とうに作つてくれてよかつたです。



(スマイルエンジェル) 息の合ったダンスを披露



(青少年相談員) 白熱したかるた大会



(味楽団おびつ店) 親子で楽しむさつまいも詰め放題



(ピアロハおびつ) 華やかな衣装でフラダンスを披露



(小櫃保育園) 元気いっぱい！さつまいも販売

文化祭1日目には、君津青葉高校の皆さんが出店。野菜や草花、パンの販売は、どれも行列ができるほどの人気でした。小櫃保育園の園児たちも、自分たちで育てたさつまいもを販売。「いらっしゃいませ！」と元気な声で呼び込みをがんばっていました。

動画「小櫃学－小櫃の戦跡」を視聴した後、特別企画展をじっくり観覧。さらに、戦時の証言として、本紙第237号で紹介した喜多見徳治さん（箕輪）にお話をいただきました。また、君津市遺族会小櫃支部長の大塚健さん（末吉）から、現在の遺族会の活動などをご紹介いただきました。その他にも、B29墜落時に落下した搭乗員の様子、終戦後シベリア（ウラジオストク）での抑留生活の後に帰国されたお兄様の話、展示品提供者からお父様が経験した軍隊生活や終戦後のスマトラ島での生活についてお話ししていただきました。最後には、一人ひとりが感想や平和への想いを語り合いました。

戦後がいつか戦前とならないよう、「戦争はやつてはならない」とみんなが思うこと、「物事を正しく判断するためには正しい情報を持ち、学ぶこと」これらを共有できた貴重な2時間となりました。

文化祭大活躍

地域の皆さんがあつた力を合わせて作り上げた文化祭。まつすじ取り組む姿がいきいきと輝いていました。そんな瞬間を写真でご紹介します。

# 小櫃の動き

第49回小櫃地区  
ふるさと祭り 9月14日(日)

小櫃小学校の児童が「社会を明るくする運動」の一環として、作文を書きました。その中に、公民館を拠点に行われている「地域食堂」や「青少年相談員」を題材にした作品がありましたので、紹介します。

## 小學生の作文を ご紹介

### いつか僕も

小川 陽介

僕は、今年夏休みに青少年相談員の人達とキャンプに行きました。家族以外の人とキャンプに行くのは初めてでとても楽しみにしていました。朝、公民館に行つてみると、



君津市消防音楽隊による演奏と「小櫃まるごとクイズ」は、初めての取り組みで、子どもから大人まで多くの方が参加し、会場は大いに盛り上がりました。参加者からは、「益踊りの時間がとても楽しかった」「地域のお祭り、すごくいいなと思いました」と笑顔の感想が寄せられました。また、祭り当日には、能登半島地震及び豪雨災害の復興支援を目的とした募金活動が行われ、80,023円の寄付が集まつたとのこと。

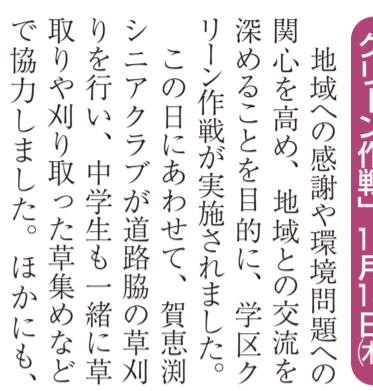
次回で50回の節目を迎える「ふるさと祭り」、来年もお会いしましょう!

たくさんの方々が準備をしていました。「ここには、よろしくね。」と相談員の人に声をかけられてとてもやさしいなど、安心しました。はじめは海水浴に行きました。浮き輪で友達と遊んだりしましたが海には深い所もあり、相談員の人達が、深い所に行かないようにみんなを見ていてくれました。・・・

いろいろな人のための  
地域食堂 田中 義人

ぼくの住んでいる地区的公  
民館で月に一回、地域のボラ  
ンティアの人達が運営してい  
る食堂が始まった。

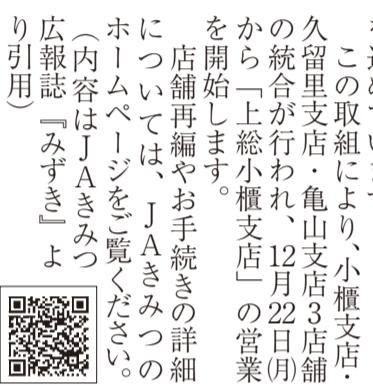
地域の人々が作っている農



産物をおすそ分けしてもら  
い、集まつた食材でその日の  
メニューが決まる。クラスの  
友達が行くと言つていたので、  
どんなイベントなのか知らず  
に参加した。その日のメニュー  
は、カレー・サラダ・デザー  
トまであつた。温かくてすご  
くおいしいかった。ぼくは友  
達とたくさん話をしながら楽  
しく食べた。家の食卓とも学  
校の給食とも違う公民館の広  
い和室での食事……

子どもたちは、身近な活動  
を通して地域のあたたかさや、  
助け合う大切さに気づいてい  
ます。ぜひ、全文を  
公民館ホームページへ  
おご覧ください。





A photograph showing three individuals, two men and one woman, working together to clean up trash along a roadside. They are using a broom and a trash bag to collect debris from the grassy verge. The road is asphalt, and there is a white fence and utility poles in the background under a clear sky.

全国自作視聴覚教材コンクール社会教育部門で入選しました。

コンクール受賞は令和5年度に「白山神社古墳」の動画に続いて2回目となります。審査員からは「房総の水利用の歴史や文化について、映像とナレーションで学ぶことができる映像教材である。地域の社会教育施設や資料館などで視聴できる資料映像としての利用価値が高い」と評価されました。

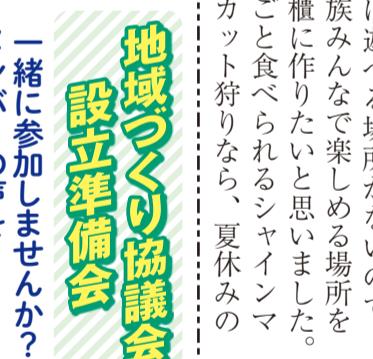
動画は公民館ロビーでの上映のほか動画配信も行っています。ぜひご覧ください！





# びつびと

A group of four people are gathered around a round table in a community hall, engaged in a discussion. They are all wearing face masks. The people are dressed in casual to semi-formal attire, including a dark blazer, a striped sweater, and a beanie. The table is covered with papers, notebooks, and pens. The background shows wooden lockers and chairs, suggesting a school or community center setting.



子どものころから家業は手つていていました。継ぐかどうか悩んだ時代に「自分たちがやらなければ、なくなってしまう」、まずはやってみることを意したのです。

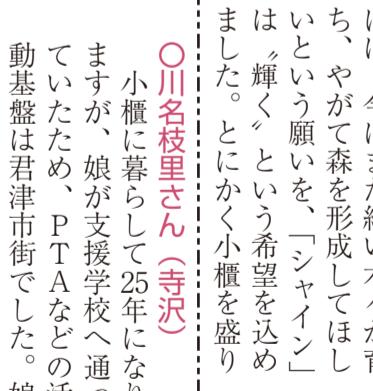
**「シャインの森」を始めたきっかけ**

友人から「小櫃のどこかに、休みに子どもを連れて行け場所はないかな」と聞かれ、いちご狩りができるけれど、は遊べる場所がないので、まごを作っています。ほかも、お米や野菜を育てています。

生として社会福祉学を学んでいる私は、自身の暮らしの場である小櫃と、小櫃の皆さんとのことを改めて知りたいと申いました。ちょうどそのようなタイミングでこの準備会が開催され、「これは行かなきもつたない！」と思つたことが参加のきっかけです。

参加してみて感じたのは「小櫃をより良くしたい」という小櫃の皆さんとの地域愛の強さです。準備会には、暮らしの場をみんなで創造するワクワク感があります。

手ぶらで参加しても、これまでの話し合いの振り返りがあり、当日の目的も分かりやすい構成になっています。

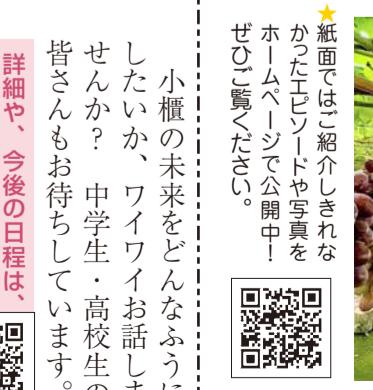


手探りでのスタートでした。昨年は暑さで不作でしたが、今年は逆に実がなりすぎてしまって。養鶏やお米づくりと並行していたので、時間のやりくりにも苦労しました。

それでも、試食をしたお客様の「おいしい!」という反応や、「小櫃にこういう場所があつてよかったです」という声に励まされています。

今年の夏は体温を超える「**録**」的な猛暑が続き大変でした。が、各地区ではさまざまなイベントが行われました。どの会場でも、暑さを吹き飛ばさないように皆さんが楽しんでいた様子が印象的でした。子ども連れの若いご夫婦がふるさとのことを子どもたちに楽しそうに話している姿が目に留まり、子どもの頃にっこしをかついだ思い出がふとよみがえりました。

来年のイベントも楽しみにしています。  
(實)



A large bunch of green and purple grapes hanging from a vine in a greenhouse, with a sign in the foreground that reads "シャインの森" (Shain no Mori).

100

詳細や、今後の日程は  
こちらからご確認くだ  
さい！



上げたいという思いがあります。